

霜月 愛南文芸

篠南川柳会

孫達の未来の夢を願う日々
 しつかりと聞いたけれどもすぐ忘れ
 禁煙しアメ玉しゃぶり三年目
 何度でも聞いて知りたい三才児
 純白のタオルの中の新生児
 名月の静かな光り和む夜
 手の皺は苦樂を共にした証
 いつまでも一升ビンの好きな方
 孫育て夢中で暮らす良き人生
 バスの中紅つけ直す手がぶれる

田中すみ子
 木本 清子
 田村 京子
 前田由紀子
 田中 保美
 谷口千代子
 松本もと
 松本 安子
 射場ちずる
 篠原みち子

宮下 熊夫
 井関 禎美
 井関 満子
 小野山シマ子
 村尾加都子
 長田 高明
 長田千恵美
 中川 一喜

そぞろ寒上着を探す一人言
 汗ばみて球打ち待つは秋の風
 凜と咲く月下美人の香に酔えり
 娘から孫へとつなぐ秋裕
 ほろ酔いになりて居待ちの月上る
 十六夜や散歩道行く影ふたつ
 満月に語りかけるや我が心
 待ちわびて立待月や帰り船

菊川俳句会

朝の香に金木犀をかぶりゆく
 木犀のカーテンふわり吹き抜ける
 午前二時金木犀とチョコケーキ
 秋清か鼻腔を満たす八百万

橋本ひかる
 鱒 瑞貴
 小野山果林
 宮本 翔吾

細長き狭庭に花を植えており歩きもならぬと夫はぼやきぬ
 今日も一日何事もなきを幸いと感謝をしつつ仏飯下げる
 干満の数式伝えし亡き父を思い出したる豪雨の夜は
 湯気昇る白さに秋を思いつつ朝の食事のコーヒーを飲む
 幸せは何気なきもの軽トラの助手席の嫁われに手を振る
 かせくりの白き毛糸を巻きおりし母の記憶もセピア色して
 「米寿まであと二年なり頑張るよ」恩師の言葉に拍手を送る
 わが姿とてもみじめに見ゆるとも心はいつも花のまさかり
 今ここで使った物を探している確かにここに置いたはずだと
 肉じゃがを作って味見するけれどいつになるやらおふくろの味
 シヤツ一枚裁つのに今日の日の暮れぬ蒸し暑き日のなおも続き
 娘と孫のゆかた姿も様になり口説きと太鼓の輪の中におり
 朝なきな鏡の中に手を入れて老いゆく顔にうすく紅ひく
 里芋を剥くのは夫と決まりゐて芋炊きをしぬ涼風立てば
 夕顔の閉つるころには朝顔が咲きて狭庭に花は絶えざる
 「鈴なり」とは拙なき表現木犀の花にむらがりつつく雀ら

扇野八代生
 水野美代子
 前田 昭夫
 澤近 正弘
 岩村千代子
 前田 知子
 山崎 能子
 宮本ヨリコ
 木本 清子
 岡垣 美子
 松本マス子
 河上 明美
 安村寿美子
 前田 充
 藤井 擴
 吉田 信保

はじめまして。赤ちゃん。

9月受付分(敬称略)

地区名	子の名	保護者

ご冥福をお祈りします。

9月受付分(敬称略)

地区名	亡くなった方	享年

※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。

